

ここ最近の問題の傾向について

■ 准 1 級

とくに大きな変化や傾向等はございませんが、過去の准 1 級の「配置図・1 階平面図」・「2 階平面図」・「基準階（または 3 階・地階など）平面図」・「断面図」を基本とした組合せの課題から、最近では「配置図・1 階平面図」・「2 階平面図」・「断面図」・「**梁伏図**」の組合せなども出題されるようになりました。ただし、課題の密度や分量は同程度のため難易度が大きく変わることはありません。

■ 3 級・4 級

4 級はとくに大きな変化や傾向等はございませんが、3 級については 4 種類の課題いずれも以前よりさらに**曲線が多用される出題**が多く見られるようになりました。円弧、3 点指示、丸面取りなどのコマンド操作が要求されますのでしっかりと練習されると良いでしょう。

なお、2020 年度は 3 級のボーダーラインが 145 点から 150 点へと変更いたします。

■ 2 級

2 級試験では様々な屋根形状の問題が出題されていますが、この 1 年（2020 年 7 月試験～2020 年 4 月試験）の傾向としては昨年引き続き「飾り屋根」が非常に多く出題されました。割合では、

- ① 飾り屋根 70%
- ② 入母屋屋根 20%
- ③ 上記①②のない、切妻・寄棟・大屋根・下屋の組み合わせ 10%

という傾向でした。

飾り屋根や入母屋屋根部分は大変複雑ですので、問題の屋根伏図などからその屋根がどのような形状をしているかを理解し、正しい位置・サイズで表現する必要があります。とくに飾り屋根は今後も出題される傾向にありますので、普段の練習からしっかりと取り組むと良いでしょう。

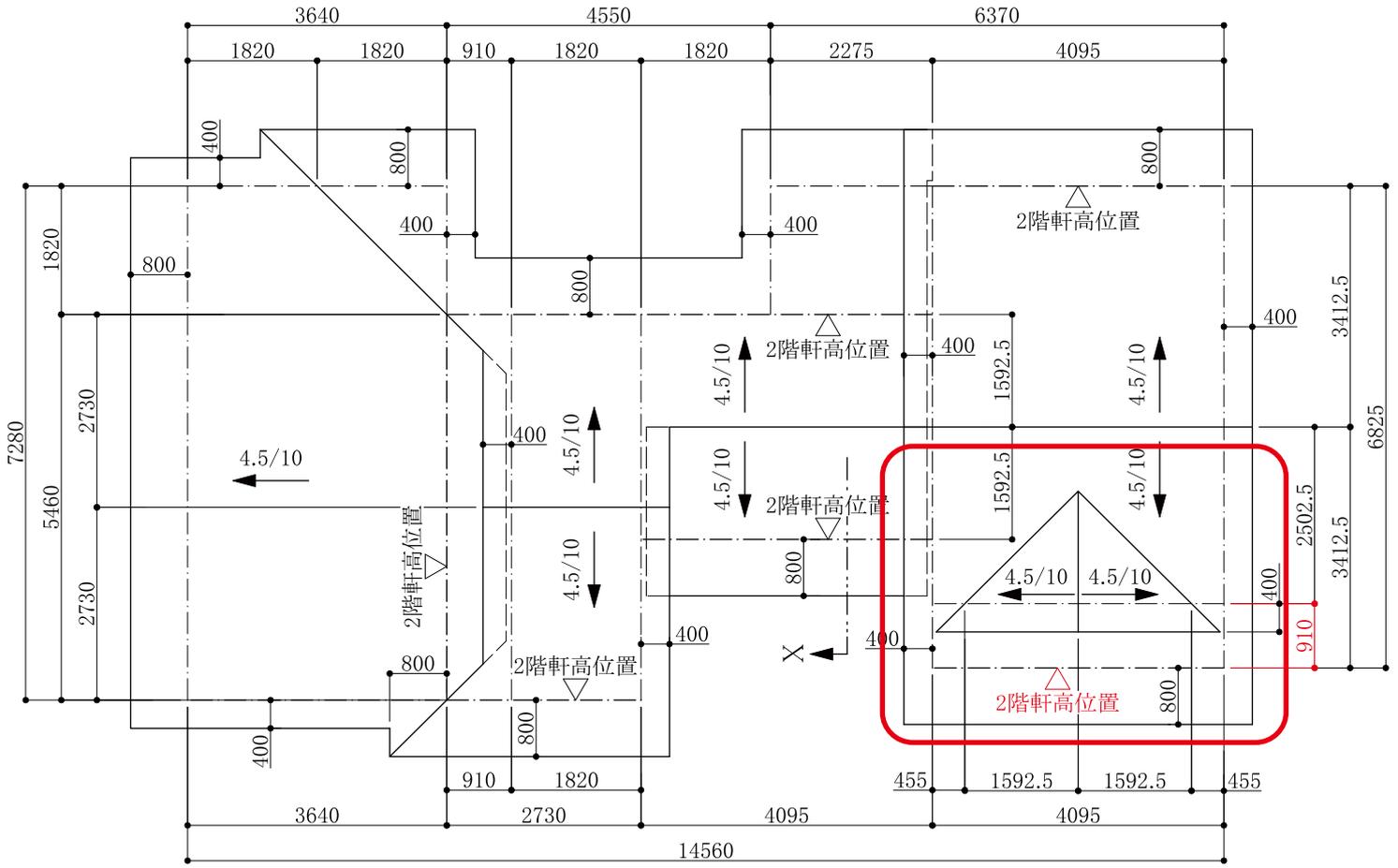
そして、さらに昨年からの特徴として「**飾り屋根**」の位置が軒高線の真上にない課題が主流となって参りました。（次頁参照）

今までのように飾り屋根が軒高線の真上にあれば、南立面図を描く際は「壁芯と軒高線の交点」を基準に比較的容易に完成できます。しかし、そうでない出題の場合、飾り屋根の位置（高さ）を正しく描けない受験者が大変多く見受けられます。

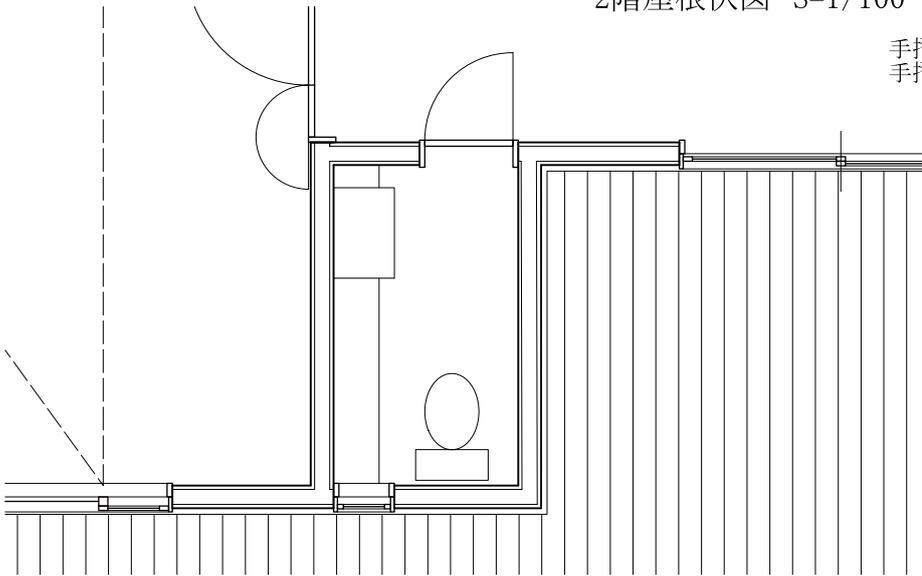
飾り屋根部分も含め「屋根」の配点は非常に高く合否に大きく影響してきますので、しっかりと理解しておくことが求められます。

最後に採点についてですが、南立面図の屋根・床下換気口のハッチングおよびサッシのソリッド（色塗り）は、昨年度より「図面イメージ評価」の項目から除外していますので特に必要ありません。

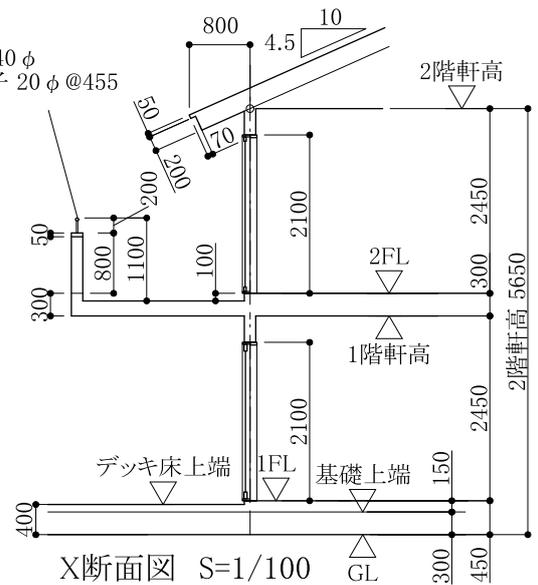
■「飾り屋根」の位置が軒高線の真上でない課題(例)



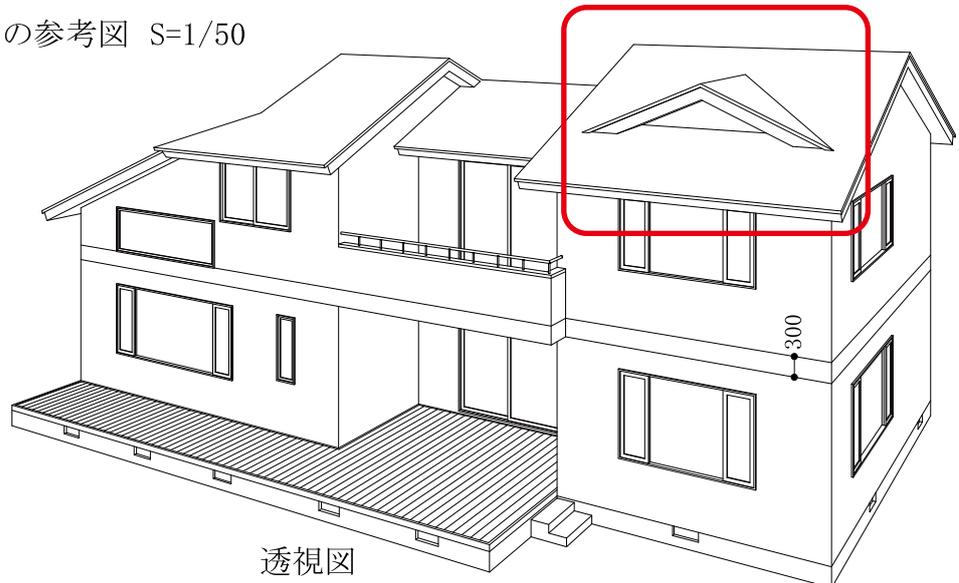
2階屋根伏図 S=1/100



平面詳細図の参考図 S=1/50



X断面図 S=1/100



透視図